

市の貯金と借金の状況

◆ 借金（地方債）の現在高の推移

	平成10年度	平成15年度	平成20年度	平成25年度	令和元年度	令和2年度
一般会計	71,109	62,602	63,687	66,640	61,702	62,031
水道事業会計	12,580	11,127	8,392	8,530	9,772	9,666
下水道事業会計	64,029	74,686	68,231	58,710	46,711	44,922
臨時財政対策債	—	7,170	17,170	31,157	34,979	35,431

（単位：百万円）

借金の借入先は、公的機関（国や地方公共団体金融機構）や民間の銀行等です。

一般会計では、民間からの借入額の割合が増えてきています。

令和2年度の場合、利率は0.003～0.400と幅がありますが、低利で、有利な借入れができるよう工夫して借入れています。現在残っている市債の利率は、4.5%以下のものばかりとなっており、その内72%が利率0.5%以下という状況です。

市民一人当たりの借金額は約26万6,000円で、この10年間の推移では、増減を繰り返しています。府内都市の平均の約28万4,000円。府内都市平均よりは若干少ないという状況が続いています。

また、一般会計では、平成13年度から「臨時財政対策債」という借金がスタートしました。

その理由は、国が地方交付税として地方自治体に交付するお金が足りないことから、当面、地方自治体が借金（後に、国が地方に返すことは約束されています）を肩代わりするというものです。つまり、国の借金です。ですので、一般会計の市の純粋な借金残高は266億円（＝62,031百万円－35,431万円）となります。

◆ 貯金（基金）の推移

	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年	令和元年	令和2年
基金合計	5,377	5,691	4,959	10,258	18,888	22,568

（単位：百万円）

表の通り、基金は増加にあります。

市民1人当たりの基金額は、本市は約6万5000円、府内都市平均は約6万7000円で、若干平均よりも少ないのが現状です。

10年間の増加額をみると、本市は4万円／人積み上げたのに対し、府内平均は2万円強／人の積み上げであることから、財政の運営が比較的安定してきたと言えると感じています。

基金は、それぞれ目的を持っており、その目的の範囲でしか使うことはできません。例えば「第二京阪道路環境監視施設維持管理基金」や「淀川左岸農業用水管理基金」が使える範囲は、その名称からも分かるように相当限られています。

一方、使い道の自由度の高いものもあります。

その代表的なものが「財政調整基金」と「公共公益施設整備基金」です。

「財政調整基金」は約116億円。施設の整備・維持に使う「公共公益施設整備基金」は約36億円。

これからの時代は、施設の建て替えが必要となる時期でもあり、それに備えた準備が必要です。公共公益施設整備基金が36億円では不十分です。市としても、その必要性を理解しており、今はこの基金の増額に取り組んでいます。

市内の2施設を視察

コロナの影響で実施を見合わせていた視察が久しぶりにありました。

会議室での議論も重要ではありますが、現場を見て確認しなければ、言葉の根拠に確信を持っていない場合があります。

議員全員で「防災備蓄センター」、特別委員会では「駅前庁舎（旧大阪電気通信大学駅前キャンパス）」の視察を行いました。

①防災備蓄センター

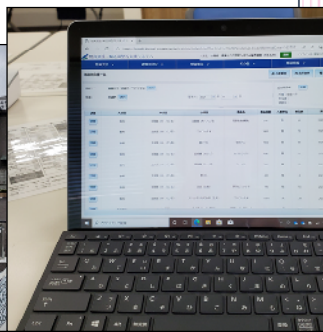
大規模な災害において多数の避難所が開設された際、避難所とネットワーク化したシステムにより、避難所の物資の不足状況と、備蓄センターの在庫状況がリアルタイムでわかることで、効率的な物資輸送を行うための拠点です。

確認事項としては

- ・ 備蓄スペースの荷持の搬入・搬出の効率性
- ・ ネットワークシステムでのパソコンの操作性
- ・ 「ほう・れん・そう」を確実にを行うための環境整備 など

災害時には市職員の割り振りが困難になることが想定されます。

パソコンでのやり取りには、避難所側の職員にも一定の訓練が必要です。ハード面の整備はされましたが、災害時をイメージし、誰もがどの役割でも対応できるようにすることが当面の目標になります。



②（仮称）駅前庁舎

特別委員会では、駅前庁舎の各階の配置について図面を見ながら議論を行ってききましたが、現物を確認していない中では、想像の域を脱しない質疑となるのも事実です。



特別委員会では「市民サービス部の窓口は、1階に集約する」よう求めています。

図面上では、現行の窓口ブース数は確保できる計算になりますが、実際に、待合スペースや動線はどうなるのか、また、証明書の自動交付機の設置は可能かなどの視点で確認しました。



増える健康遊具

公園に設置する遊具は、健康を意識したシルバー世代を対象とした健康遊具が増えてきています。

最も多く遊具を設置している公園では、10種類の健康遊具があります。

パラレルハンガー、腹筋ベンチ、ツイストボード、サイクルパワー、背伸ばしベンチ、平均台、ローリングステップ、棒飛び越し、バランス台

他の公園で設置されているものには、

前屈台、ぶら下がり器具、馬跳び、足つぼ踏み、ストレッチフープ、スプリングバーなど。

市内の74の都市公園の内、すでに37の公園に健康遊具があります。

伊豆市にある世界一大きな花時計の外周には、足つぼを刺激する石を並べた健康歩道があり、遊び心のある取り組みとして記憶に残っています。